

### 1. 本ガイドの位置付け

弊社情報システム開発方法論の「フェーズガイドブック」では、フェーズ、アクティビティで使用する設計図書の作成についてもガイドしている。本ガイドでは、各フェーズ、各アクティビティで使用する設計図書を作成する際の表現技法(その中でも特に図表表現)に焦点を当て、誰が見ても分かりやすい設計図書を作成するための事例紹介とノウハウを提供することを目的としている。

### 2. 本ガイドの主旨

今も昔もユーザ部門と情報システム部門との間のコミュニケーションギャップによって、「ユーザが要求した要件」と「開発された情報システムの仕様」に乖離が生じてしまったという事例が多くある。

このコミュニケーションギャップの発生をできる限り抑えるためには、要件定義書や設計書などの設計図書を上手に利用し、各レビューにて認識齟齬の有無を確認することが効果的である。

そのためには、各種設計図書の品質が重要であり、誰が見ても正しく理解できる内容でなければならない。

そこで本ガイドでは、各種設計図書の品質を高め、誰が見ても正しく理解できる設計図書を作成するための「表現方法」に着目する。更に表現方法の中でも複雑な構造を表現することが可能であり、直感的に全体を捉えることができるという特徴を持つ「図表表現」に焦点を当てる。

この図表表現の技法を4つのモデル(領域系、連結系、配列系、座標系)に分類し、各モデルの定義と適性、モデル別の事例を紹介する。この4つのモデルによって、設計図書を作成する際にどのように描けば良いかが検討しやすくなるはずである。

また、図表表現の手順も紹介しているため、情報システム開発の現場で設計図書を作成する場面で、本ガイドを是非ご活用頂きたい。

2014. 07 株式会社プライド

### 参考：目次構成

I. 文書と表現方法.....	1 <sup>μ</sup>
1. 文書の体系と特徴.....	1 <sup>μ</sup>
2. 表現方法の体系と特徴.....	2 <sup>μ</sup>
II. 図表による表現の技法.....	6 <sup>μ</sup>
1. 4つのモデル.....	6 <sup>μ</sup>
2. 4つのモデルの位置づけ.....	8 <sup>μ</sup>
III. モデル別の図表事例.....	9 <sup>μ</sup>
1. 領域系.....	9 <sup>μ</sup>
2. 連結系.....	16 <sup>μ</sup>
3. 配列系.....	25 <sup>μ</sup>
4. 座標系.....	29 <sup>μ</sup>
IV. 図表表現の手順.....	34 <sup>μ</sup>
おわりに.....	37 <sup>μ</sup>
参考文献.....	38 <sup>μ</sup>
付録.....	38 <sup>μ</sup>
付録1:8つの要件.....	i <sup>μ</sup>
付録2:主要成果物関連図.....	v <sup>μ</sup>
付録3:拡張 CRUD マトリクス.....	vi <sup>μ</sup>

以上